

<u>概要</u>

課題:

•パターン撮影×数十枚 : 面倒,要経験・理解

・膨大な計算: 長い待ち時間

5面ディスプレイ式カメラ校正データ取得装置

撮影~データ収集作業の負担を大幅軽減

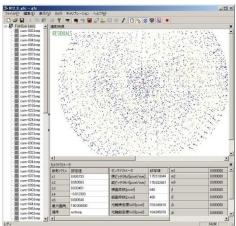
- •通常視野カメラ~180度以上視野魚眼カメラまで対応
- •各面においてCoplanar特徴点データを高速自動収集

GPGPUによる高速カメラ校正計算ソフトウェア

膨大なデータに対する計算時間を大幅削減

•CUDAによる大規模並列計算





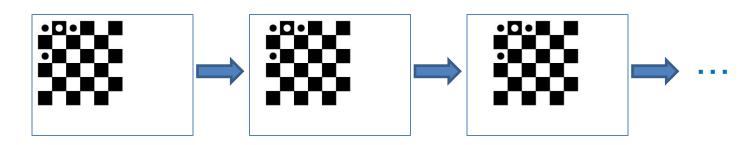


校正処理手順



①チェスパターン画像撮影

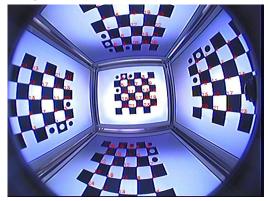
校正計算に使用するチェスパターンの画像を各ディスプレイに表示し、撮影する。少しずつ表示位置をずらしながら、任意回数撮影を行う。



②特徴点の検出

撮影した画像中のチェスコーナーの座標を特徴点座標として検出する。

個々のディスプレイ領域は自動認識され, 共平面な特徴点データがグループ化される.



③校正計算

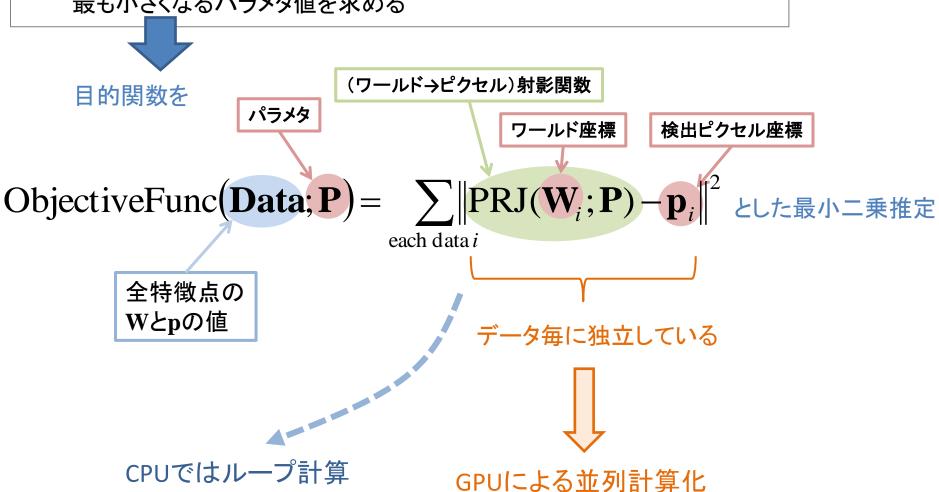
検出した特徴点座標と、ディスプレイ表示に使用したチェスパターンのコーナーの情報を使用して、カメラパラメータを算出する。

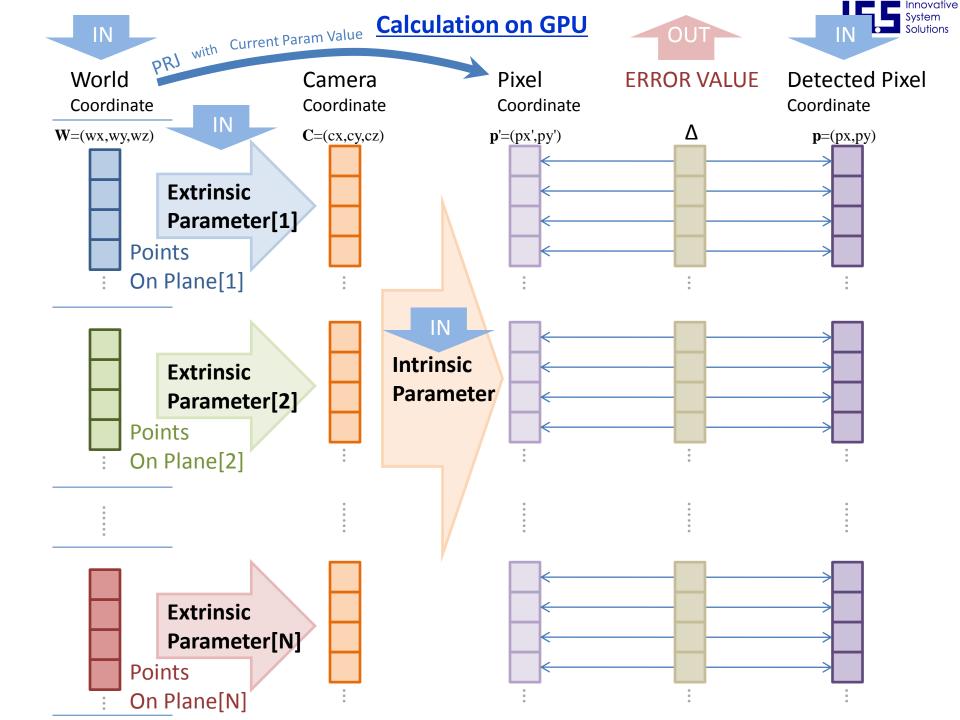
パラメタ校正計算のCUDAによる並列化

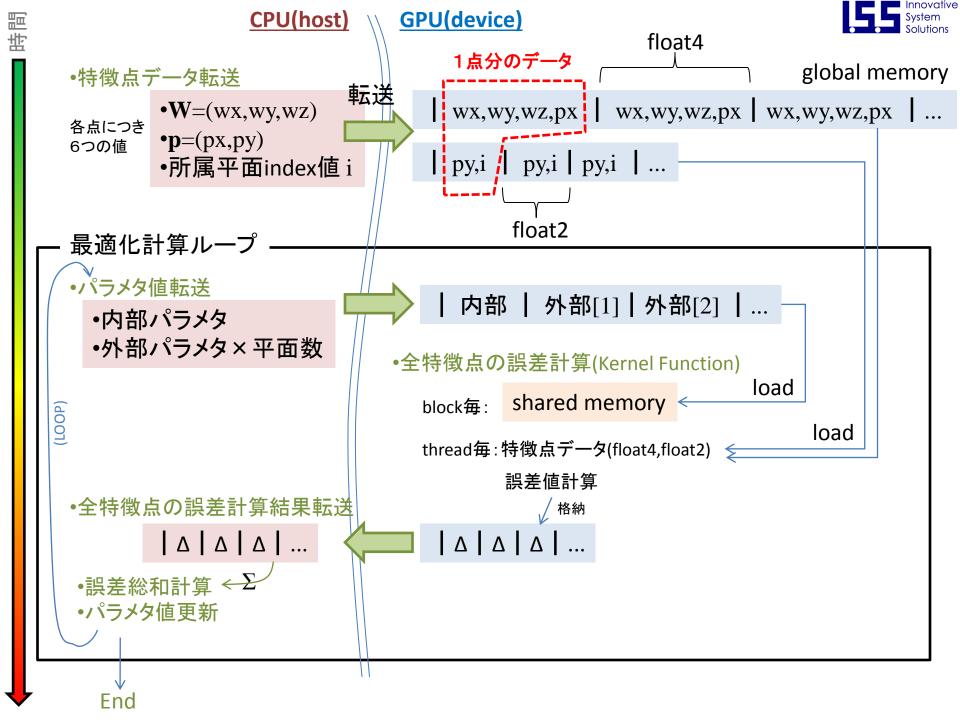


校正(パラメタ推定)計算:

- 1. 既知のワールド座標をもつ特徴点を撮影する
- 2. パラメタによる射影位置と、実際の撮影画像上の特徴点位置との差が 最も小さくなるパラメタ値を求める







校正計算のGPU処理化の現状況

Innovative System Solutions

<u>実装</u>

- •単精度(float)
- •個々の特徴点に関する誤差値のみをGPUで計算
- •単一GPU

結果精度

•CPU実装に比べて低い→要因解析中.(バグの可能性も含めて)

<u>速度</u>

•CPUと真っ当に比較できる段階にはないが、多少は向上?

<u>検討課題</u>

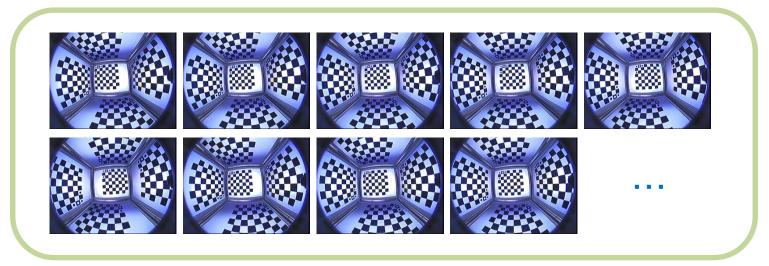
- •より良いGPUコードの模索
- •倍精度演算の検討
- •複数GPU利用
 - 大量データ時(データ塊毎に分け)
 - 差分近似時(パラメタ値毎に分け)
- •GPU側で行う処理を増やす(e.g. 大量の値のSUM等) (最適化計算処理自体を独自実装しないと踏み込めない)

実験例

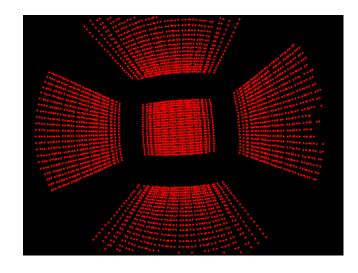
Innovative System Solutions

撮影と特徴点検出

●7×7のチェスパタ―ンを動かしながら、18回撮影



•使用した特徴点の数:3790ポイント



[撮影、特徴点認識処理所要時間 19032ms]

計算結果

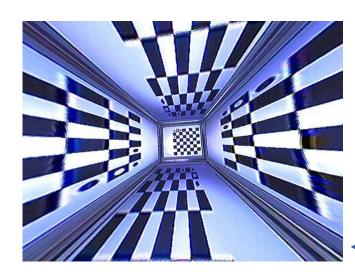
●GPU使用

•計算時間:6255ms

- 算出カメラパラメータ

U0:314.177704 V0: 227.865280 Mu: 176.598419 Mv: 175.785538

K1: 0.814573 K2: 0.065110 K3: 0.010032 K4:-0.000466 K5:-0.001057





原画像

●CPU使用

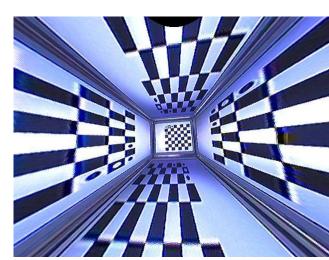
•計算時間:165160ms

算出カメラパラメータ

U0:312.780020 V0: 226.074202 Mu: 177.551790 Mv: 175.785542

K2: 0.045515 K3: 0.045260 K4:-0.017489 K5: 0.001312

K1: 0.841145





お問い合わせ

- WEB http://www.japan-iss.co.jp
- Mail kamatomo@japan-iss.co.jp
- TEL: 019-643-2600
- ・ 担当:鎌田智也までご連絡ください